

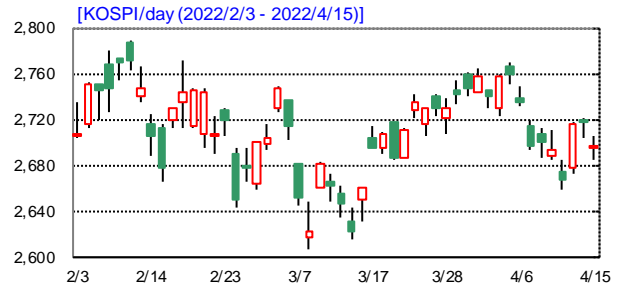


【韓国】 総合指数は週間で0.2%安と小幅に続落、今週は堅調な値動きか

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.2%安と小幅に続落。週を通じ、心理的節目の2700ポイントを挟んでもみ合う展開だった。強弱材料が入り混じり、方向感を欠いた。週明け11日は、米長期金利の上昇が嫌気されて反落。12日も下落し、終値は3月16日以来およそ1カ月ぶりの安値となった。13日は3日ぶりに反発。3月の米CPIが市場予想に沿った水準だった上、同日発表された韓国の3月の失業率が3.0%と前月比0.4ポイント低下し、好感された。14日は続伸したが、インフレ高進を懸念した韓国銀行（中央銀行）が予想外の利上げを決め、上値を重くした。15日は3日ぶりに反落した。今週は上昇か。韓国政府が15日、新型コロナウイルス対策の行動規制などの解除を発表した。経済活動の再開を受けた買いが相場を支えそうだ。

▼指数チャート

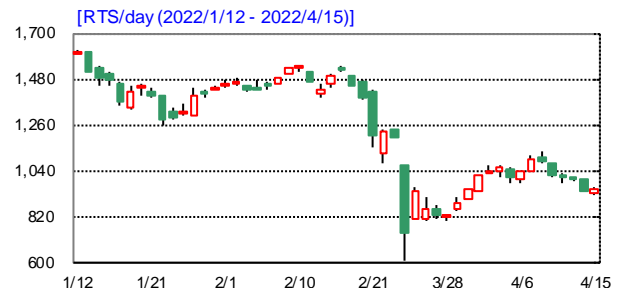


【ロシア】 RTS 指数は11.5%安と大幅に3週ぶり反落、今週も経済制裁が重しか

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で11.5%安と3週ぶりに大幅反落。対ロシア経済制裁が嫌気され、主力のエネルギー、金融株が軒並み下落した。週明け11日は前週末比5.8%安。米国株が下落し、リスク回避が強まる中、西側諸国による対ロ経済制裁やルーブル安が重しとなった。指数は12-13日に連日で1%前後下落すると、14日は5.6%安と再び大幅安となった。15日はルーブル高を受けて1.5%高と6日ぶりに反発したものの、終値では955.46ドルと3月30日以来の安値で終了した。ルーブルは対米ドルで一時6.6%安まで下落し、0.6%安で終了。個別銘柄ではエネルギーのノバテックが12.0%安と急落し、ガスプロムが7.1%安、ルクオイルが6.4%安。金融のズベルバンク・オブ・ロシアは8.9%下落した。今週も経済制裁が重しか。

▼指数チャート

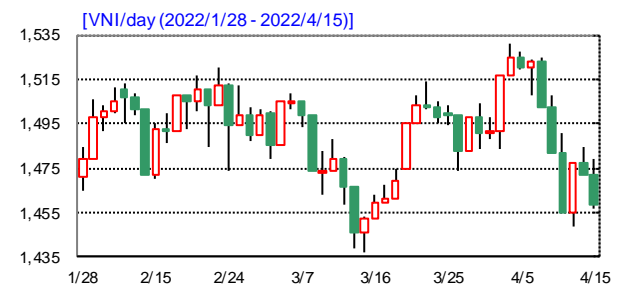


【ベトナム】 ベトナム指数は週間で1.6%安と続落、今週は上値の重い展開か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で1.6%安と続落。主力株の利益確定売りが重しとなった。先週は11日が休場で4日間の取引。連休明けの12日は利益確定売りが続き、指数は前週末比1.8%安と3日続落。海外勢の売りが優勢となる中、主力のベトナム・ラバーが5%超下落したほか、不動産銘柄や金融株も下落し、指数を押し下げた。13日は押し目買いで1.5%高と反発したが、14-15日は続落した。個別銘柄では家電小売りのモバイル・ワールドが6.8%高、コングロマリットのFPTが6.0%高、エネルギーのペトロベトナム・ガスが4.4%高となった一方、金融のテクコムバンクが6.7%、ベトナム投資開発銀行が6.2%、軍隊商業銀行が5.4%、不動産のビンホームズが5.3%、鉄鋼のホア・ファットが4.7%下落した。今週は上値の重い展開か。

▼指数チャート



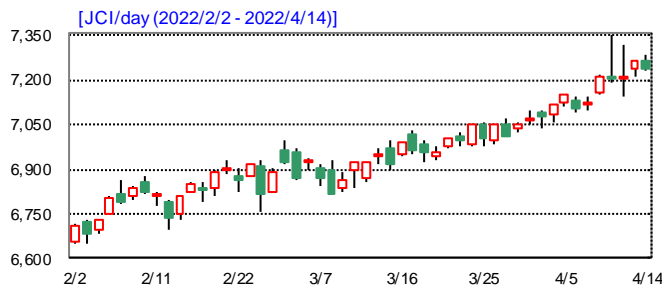


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.3% 高、今週は中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催

ジャカルタ総合指数は 4 日間の取引で 0.3% 高と 5 週続伸。1 週間を通じて終値で 7200 ポイント台を維持した。週初の 11 日は、欧州連合 (EU) によるロシア産石炭の輸入停止に向けた動きを受けて石炭関連銘柄が買われ、場中に一時、7300 ポイント台半ばまで上昇したが、終値では 3 営業日ぶりに反落。ただ、12 日に反発し 2 日ぶりに過去最高値を更新すると、13 日も買い優勢の展開が続いた。14 日は翌日からの連休を前にした買い控えで反落している。今週は 18 日の 3 月の貿易統計発表に続き、19 日には中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定で、政策金利は 3.50% に据え置かれるとの見方が優勢。

▼指数チャート

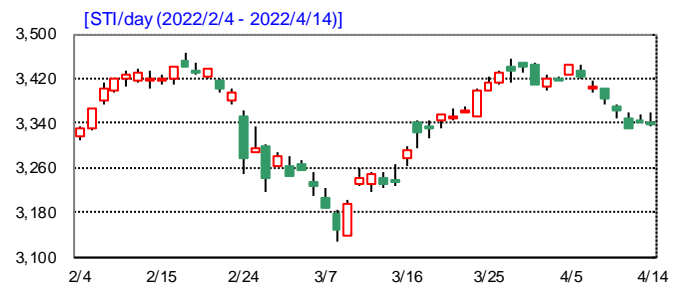


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 1.4% 安、1-3 月期の GDP 速報値は前年同期比 3.4% 増

ストレーツタイムズ指数は 4 日間の取引で 1.4% 安と続落。買い材料に乏しく、1 週間を通じて 3400 ポイントに届かなかった。週初の 11 日は、中国株が新型コロナの感染拡大や 3 月のインフレ率が市場予想を上回った影響で下落した流れを引き継ぎ、4 営業日続落。12 日は引け際に売られ、前日から 1.0% 下落したが、13 日は米国の 3 月のインフレ率が予想の範囲内だった効果で 6 日ぶりに反発した。ただ、14 日は 1-3 月期の GDP 速報値が前年同期比 3.4% 増と市場予想から下振れたことなどが嫌気され、反落して連休前の取引を終えている。今週は 18 日発表の 3 月の非石油地場輸出に対する市場の反応が焦点。

▼指数チャート

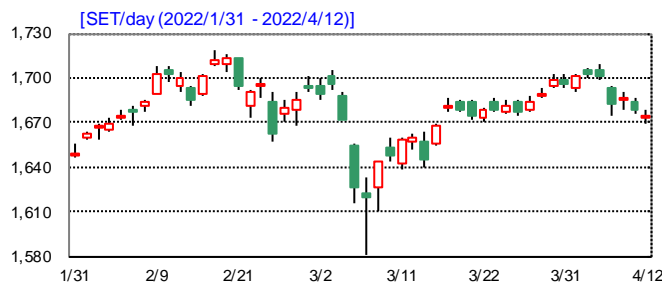


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.7% 安、今週は 3 月の貿易統計が焦点

SET 指数は 2 日間の取引で 0.7% 安と続落。連休前の買い控えでさえない値動きだった。週初の 11 日は、中国での新型コロナの感染拡大に伴う景気減速や FRB の積極的な金融引き締め方針が売り材料となり、指数は反落。12 日も売り優勢の展開が続いたが、翌日から始まるソンクラーン (旧正月) の連休後に国内の新型コロナの感染が再拡大するとの観測から医療機関株が買われ、下げ幅を縮めた。今週は 22 日に 3 月の貿易統計 (通関ベース) が発表される予定で市場予想から上振れすれば好材料。外部要因では、18 日発表の中国の 1-3 月期の GDP や 3 月の鉱工業生産、ウクライナ情勢が指数を左右しそうだ。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.1% 安、今週は 1600 ポイント台回復に期待

クアラルンプール総合指数は週間で 1.1% 安と反落。じりじりと下値を広げた 1 週間だった。週初の 11 日は、2 月の鉱工業生産がほぼ市場予想通りだったものの買い材料視されず、指数は反落。12 日は引け際に売られ、終値で 5 営業日ぶりに節目の 1600 ポイントを割り込んだ。13 日は前日からほぼ横ばいだったが、14-15 日は引け際に利益確定売りが出て、終値は連日で前日を下回っている。今週は 18 日の 3 月の貿易統計に続き、22 日には同月の CPI が発表される予定。外部要因では米国の金融引き締めに関する動向や、中国の新型コロナの感染状況が相場を左右する展開か。19 日はコーランの掲示日のため休場。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。